

會務報告

第 23 卷 第 2 號 昭和 12 年 2 月

役員會

第 15 回理事會 (昭 11. 12. 7)

出席者：井上會長，辰馬副會長，後藤，藤井，宮長
各理事，清水關西支部長，山本關西支部主
事

報 告

1. 前會長中山秀三郎君長逝せられたるに付本會は
弔詞並に花輪を靈前に呈せり。

2. 萬國橋梁構造會議に就き堀越一三君よりの通信
を報告せり。

議 事

1. 昭和 12 年度關西支部收支豫算並に年次學術講
演會經費豫算に就き清水支部長より豫算内容の説明あり
協議の結果改めて收支豫算書の提出を受け之を常議
員會に諮ることとせり。

2. 議案第 2 項—第 13 項に就ては次回理事會に
て協議することとせり。

第 16 回理事會 (昭 11. 12. 14)

出席者：井上會長，辰馬副會長，宮本，萩原，藤井，
沼田，宮長各理事

議 事

1. 昭和 12 年度關西支部收支豫算は更正豫算書の
提出ありたるを以て之を審議し原案(別紙省略)の通
り承認することとせり。

2. 關西支部より提出ありたる年次學術講演會經費
豫算は原案(別紙省略)の通り承認することとせり。

3. 昭和 12 年度本會收支豫算は原案(別紙省略)に
細目内譯を記し常議員會に諮ることとせり。

4. 東亞調査委員會委員に外務參與官松山常次郎
君，外務省事務官別府節彌君を，幹事に中村清照君を
依囑することとせり。

5. 用語調査常置委員會委員長中山秀三郎君逝去に
依る後任委員長に中川吉造君を，委員に小宅習吉君，
幹事に糸川一郎君を依囑することとせり。

6. 杭の支持力公式調査委員會委員に次の諸君を追
加依囑することとせり。

常山道三君 最上武雄君 片平信貴君
山内一郎君 河合宏美君 坂本信雄君
住友彰君 三好宗逸君 綾龜一君

小出製治郎君 森田三郎君 藤森謙一君
石田武雄君 梅津清七君 外 2 名詮衡中

7. 土木文化映畫作製委員會の名稱を土木學會文化
映畫委員會と改稱することとせり。

8. 印度マイゾール湖技術協會と雜誌の交換及土木
技術等の連絡を採ることとせり。

9. 南滿洲工業專門學校教授淺野好君より申出に係
る講演會は開催することとし期日は迫り取極めること
とせり。

10. 11 年度に於て贈呈すべき土木賞牌箇數は次回
に決定することとせり。

11. 鑛山局及鑛山監督局に土木技術者任用方を別
紙(省略)の通り商工大臣に建議することとせり。

12. 年次學術講演會，講演，見學其の他の委員長及
委員を次の通り依囑することとせり。

委員長 清水 照君

講演委員 大井清一君 瀧山 與君 平野正雄君
高橋逸夫君 武居高四郎君 近藤泰夫君
石原藤次郎君 米谷榮二君 小西一郎君

幹 事 澤井八州男君 小林 勇君

見學委員 岩崎雄治君 平野重市君 後藤久吉君
高田 景君 岩井芳通君 有光 正君
中川幸太郎君 木村 喬君 三輪周藏君
長久保俊夫君 福留並喜君 宮内義則君
鳥崎孝彦君 鈴木義一君 内山新之助君
橋本敬之君 松浦不二夫君 高西敬義君
荻原基治君 柴田辰之進君 佐藤 鼎君
鮫島午吉君 松田健作君 荒木文四郎君
村山喜一郎君 吉岡計之助君 中村清輔君
奥中喜代一君 藤澤惟介君 笈 斌 治君
川上留吉君

庶 務 後藤佐彦君 坂本助太郎君 島 重 治君
岩田成實君 松島寛三郎君 永井亨三君

13. 昭和 12 年京都市に於て開催すべき年次學術
講演會の名稱を土木學會講演京都大會とすることとせ
り。

14. 入退會の件

赤木進君を會員に飯山外治君外 9 名を准員に有泉
文雄君外 11 名を學生員に入會を承認し，准員選藏君
を會員に転格承認せり。會員中山秀三郎君，准員宇野

木隆次君外 3 名、学生員神家滿武君は死亡し、會員齋藤四郎君外 1 名の退會を承認せり。

以上自第 1 項至第 9 項、自第 13 項至第 15 項は常議員會に諮ることとせり。

第 17 回理事會 (昭 12. 1. 11)

出席者： 井上會長、辰馬副會長、宮本、萩原、藤井、沼田、宮長各理事

議 事

1. 通常總會の順序を次の通りとして常議員會に諮ることとせり。

1. 昭和 11 年度事業報告
2. 昭和 11 年度決算報告
3. 役員選舉の結果報告並に紹介
4. 土木賞牌贈呈
5. 會長講演

2. 通常總會を 2 月 15 日 (月曜日) 午後 5 時帝國鐵道協會に於て開催することし常議員會に諮ることとせり。

3. 1 月 28 日 (木曜日) 午後 5 時次の講演會を開催することとせり。

會 場： 帝國鐵道協會

演題及講演者： (1) ボールダージェム工事に就て

小野基樹君

(2) 第 3 回世界動力會議並に第 2 回國際大堰壩會議見学旅行調査報告

附・映畫： 米國に於ける堰壩工事の實寫

石井顯一郎君

4. 淺野好君の講演會を 2 月末日開催することとし同君の都合を照會することとせり。

5. 役員會及委員會其の他の會合を別表 (省略) の通り開催することとせり。

第 8 回常議員會 (昭 11. 12. 21)

出席者： 井上會長、宮本、萩原、沼田、宮長、後藤、小野、河口、菊池、關、堀越、吉田各常議員、中川、那波、名井、眞田、青山各前會長

會議に先ち定款第 42 條に依る常議員退任の抽籤を行ひたる結果次の如し。

留任すべき常議員

關 信 雄君 沼田 政 炳君 宮本武之輔君

退任すべき常議員

後 藤 茂君 吉 田 直君

離任せる常議員

立 花 次 郎君

報 告

1. 前會長中山秀三郎君長逝せられたるに付本會は弔詞並に花輪を靈前に呈せり。

2. 萬國橋梁構造會議に就て本會代表として出席せる堀越一三君よりの通報を報告せり。

3. 東亞調査委員會委員に外務參事官松山常次郎君、外務事務官別府節瀨君を、幹事に中村清照君を依頼せり。

4. 土木學會用語調査常置委員會委員長中山秀三郎君逝去せられたるに依り後任委員長に中川吉造君を依頼し委員に小宅習吉君、幹事に糸川一郎君を依頼せり。

5. 杭の支持力公式調査委員會委員を理事會記事の通りに依頼せり。

6. 昭和 12 年京都に於て開催すべき年次學術講演會の名稱を土木學會講演京都大會とせり。

7. 印度マイゾール洲技術協會と雜誌の交換及技術上の連絡を図ることとせり。

8. 土木學會講演京都大會委員長及委員を理事會記事の通り依頼せり。

9. 入退會の件別紙 (省略) の通り承認せり。

議 事

1. 昭和 12 年度關西支部收支豫算を別紙原案 (省略) の通り承認す。

2. 昭和 12 年土木學會講演京都大會經費豫算を別紙 (省略) の通り承認す。

3. 昭和 12 年度本會收入豫算を別紙原案 (省略) の通り承認す。

4. 昭和 11 年度臨時刊行物費追加豫算を別紙原案 (省略) の通り承認す。

5. 鑛山局及鑛山監督局に土木技術者任用方を建議することとし右建議文には事業者に於ても適當なる土木技術者を雇附せしむる様監督官廳に於て措置せられ度き旨附記することとす。

第 9 回常議員會 (昭 12. 1. 11)

出席者： 井上會長、辰馬副會長、内田、加藤、詣、河口、沼田、萩原、藤井、宮長、宮本、吉田各常議員、岡野、眞田兩前會長

報 告

1. 1 月 28 日の講演會次第を理事會議事の通り報告せり。

2. 役員會及委員會其の他の開催日を別表 (省略) の通り報告せり。

議事

1. 通常總會の順序を理事會議事の通り決定せり。
2. 通常總會を2月15日(月曜日)午後5時帝國鐵道協會に於て開催することに決定せり。
3. 昭和11年度事業報告を別紙原案(省略)の一部修正し承認せり。

總務部記事

第7回振興委員會第3部會(昭11.11.11)

出席者: 太田尼委員長, 佐藤, 須之内, 瀬戸, 瀧山, 服部, 松井各委員

土木界の振興策は要するに「人」の養成に歸する。

- (イ) 専心土木工学の研究に没頭する人
- (ロ) 工事の直接指導に従事する人
- (ハ) 總括的な事務的實務に従事する人

以上三様の優秀人物を養成し協力して事業の計畫, 遂行を計れば必らず所期の好結果を得て公共事業の本質にも適ひ隆昌の因ともならん。今日の学校教育並に社會制度にあつては素質に隨ひ其の何れかに向ふに當り尙幾多の困難ある如く思はる, 然して機構改革にあつては以上三様の何れの者も同等の待遇を受け得る様留意する必要あり, 専門学校以下には時間の餘裕なしとするも大学の授業科目には行政, 經濟, 社會学等に關する講座の増設を図り美学, 宗教等に關する講演會或は座談會をも催して人物の養成に努められん事を希望す。

第8回振興委員會第3部會(昭11.11.19)

出席者: 太田尼委員長, 絳形, 奥田, 須之内, 瀧山, 南保, 服部, 松井, 土生各委員

少壯工学士にして東京朝日の文藝部擔當記者なる相川君を圍み, 社會は如何なる程度に技術關係の記事を欲求してゐるか, 新聞社は如何なる風に是を取扱つてゐるかと言ふ問題を中心として種々内面からの打明け話を聴く。最後に同君より記者として何れの技術關係學會も今少しく關心を新聞に持ち新聞社と協力して世人の啓發に努力されん事を切に希望すと述ぶ。

相川君を送りて後更らに委員會を継続し懇談を遂ぐ。

(1) 社會が科学並に技術關係の記事を欲求する事の甚だしきは記事内容につき質疑の投書山積すとの實例に徴しても明かなり。

(2) 最近各新聞社ともそれぞれ専門家出身を記者として進んで採用し而も是を重用して誤報の除去に努力

しつゝある事は注目に値す。

(3) 學會並に技術關係の記事は入手困難にして而も價値の判断に苦しみ居る状態なり。

(4) 學會, 技術關係の記事は大いに歓迎する故通信或は投書を望む。

以上の4項目より得たる結論として第3部會は學會内に「情報部」の設置の必要あることを認むるものである。

建議事項

學會内に至急情報部を設置されん事を第3部會は重ねて決議す。

理由

土木界の振興は優秀人物の獲得と社會の正當なる認識に依つ事業の隆盛並に地位の向上に依つて行はるものと思ふ。學會よりの適切な刻々の記事は世人に多大の注意を喚起し, 若し興味を中心ともなれば自然優秀人物の蟄集ともなり事業興隆の因ともなる。亦委員會活動の詳報は例へば機構改革の必要を世人に認めしめ實現の氣運を促進するに與つて力あるものと推察す, 因つて情報部の設置を行ひ新聞或は大衆雜誌と連絡をとられん事を希望する次第である。

第9回振興委員會第3部會(昭11.12.29)

出席者: 太田尼委員長, 野坂, 内山, 奥田, 瀬戸, 富樫, 南保, 松井, 小宅, 今井, 土生, 各委員, 山岡包郎君, 小野寺庶務主任

協議事項

學會の發展は其の中心となる常議員の人選に關係する事甚だ大なる處あるを察し, 豫てより人物第一, それに各年代, 部門を加味する必要がある事を主張し來りたる第3部一同の意見に基き委員銜衡につき種々打合せを行ふ。

尙明年度第3部會を如何に處置するかにつき意見あらば持ち寄り正月早々協議する事にして散會す。

編輯部記事

第1回會誌編輯委員會(昭12.1.12)

出席者: 關委員長, 伊藤, 稻葉, 板倉, 大久保, 岡崎, 加藤, 鈴木, 野坂, 廣瀬各委員, 藤井編輯部長, 五十嵐, 中川編輯囑託

1. 第23卷第1號所載寫眞, 時報, 抄録に對する謝禮を決定せり。

2. 第23卷第2號に下記を追加登載する事とせり。
工事寫眞: 全通せる西河網線, 全通せる遠別線, 山

形縣兩羽橋、大阪市津守下水處理場、竣功せる9號國道工事、新名古屋驛

會員の頁： 隨想片々（會、山本英俊）

時 報： 西瀨網線全通、遠別線全通、十勝川河西橋架換工事、切換え近き新名古屋驛、宇佐美陸道の貫通、都市計畫關係決定事項、東京電燈信濃川發電所發電計畫概要、東北振興電力阿武隈川第二發電所發電計畫概要、滿州國土木行政機構の改正

3. 第 23 卷第 3 號に下記を登載する事とせり。

講 演： 1 月 28 日講演豫定の講演 2 編

論說報告： 橋梁トラスの剛節により生ずる二次應力の新算定と其の二三の特性に就て（會、工博、鷹部屋福平、會、酒井忠明）

討 議： 連続拱橋の解法（會、荒井利一郎）同上（著、會、工博、三瀬幸三郎）

葉 報： 昭和 11 年 10 月初旬の浪害に依る青森保事管内の被害に就て（會、平松吉二）、犀川筋梓川電力澤渡發電工事概要（會、林爲藏、緒方惟明）

抄 録： 鋼及輕合金の構造物への応用（最上）、シムブロン自動車陸道計畫（藤田）

4. 昭和 11 年度優秀論文選定に就き協議し、協議の結果を常議員會に報告する事とせり。

調 査 部 記 事

第 2 回杭の支持力公式調査委員會（昭 11. 12. 3）

出席者： 谷口委員長、金森、鈴木、富樫、松田、松村、山口、山田各委員、石田、藤森各幹事、山内一郎君、五十嵐編輯囑託

1. 現幹事を委員とし、委員總數を 28 名に増員する様要求する事、（追加委員名省略）。

2. 本委員會の委員分擔を理論方面と實際方面に分つ事とし、理論方面の主査に山口委員を、實際方面の主査に金森委員を依頼する事とす。委員の分擔は別紙の通りとす。（別紙省略）

3. 建築學會へ杭の支持力に關する調査委員會ありや、又何らかの研究目論見ありやを照會する事とす。

4. 官公署、會社、個人等より杭の支持力に關する實驗資料を蒐集する事とし、その具體案を作成する事とす。

第 7 回鋼橋示方書調査委員會（昭 11. 12. 9）

出席者： 田中委員長、沼田調査部長、青木、瀧尾、成瀬、小澤各委員、友永幹事、五十嵐編輯囑託

1. 第 10 條活荷重の方向につき沼田調査部長より説明あり原案を認め解説にその説明を附す事とす。

2. 沼田調査部長提出 遠心力の參考表につき説明密議あり。

第 8 條に於ける遠心力を 10% とする事を認め解説として上記參考表を附す事とす。

3. 第 13 條許容応力につき田中委員長より

St. 39 に於て次の 4 項目 (1) J. E. S. の公差、(2) 銀孔の影響、(3) 二次応力、(4) 其の他、を考慮し true safety factor 1.3 として allowable tensile stress は 1200 kg/cm^2 になる旨説明あり原案の 1200 kg/cm^2 を認む。

4. 第 12 條交番応力につき田中委員長より Weyrauch 氏の公式に於て $1/2$ なる係數を $1/3$ に改める事につき説明あり。

5. Plate girder 設計に於て

中立軸は全斷面積にて決定する事

抗張突縁は純、全、兩斷面積の比による応力の割増しをなす事

抗圧突縁は全斷面積にて slenderness ratio を決定する事に決し抗圧許容応力は次回密議とす

第 5 回讀賣工事標準契約書調査委員會（昭 11. 12. 10）

出席者： 菅野、近藤、錢高、三浦、富永各委員、柴原書記長

議 事

近藤幹事作製の契約書原案は監督技師の資格に重きを置きその條文を起草したるものに付き前回委員會の決議通りの主旨によりこれを修正し我國の現状に則したる原案を再起草することとしその起草を再び近藤幹事に一任することとせり。

法 制 部 記 事

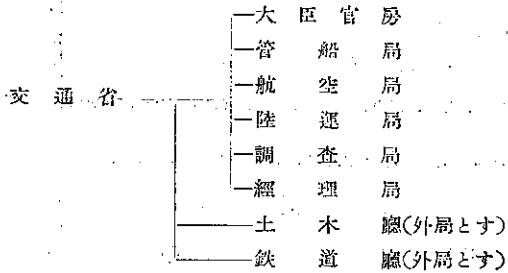
第 7 回行政機構改正調査委員會（昭 11, 12, 15）

出席者： 宮長法制部長、榎木、後藤、鈴木、高橋（蓋）、古川、三浦、宮島各委員、小野寺庶務主任

議事要項

宮長部長 交通省官制原案に就き説明し、榎木委員工務省案に就き意見を述べ、河川、發電水力、上下水道は之を如何に取扱ふべきかに就き各委員の意見の交換あり結局交通省原案を討議し、大體次の成案を得たり。

交通省官制



- 陸運局に於ては次の事務を掌る。
1. 地方鉄道及軌道に関する事項
 2. 鉄道及軌道以外の陸運に関する事項
- 調査局に於ては次の事務を掌る。
1. 総合的調査計畫に関する事項
- 經理局に於ては次の事務を掌る。
1. 本省所管の經費及諸収入の豫算決算並會計に関する事項
 2. 會計の監督に関する事項
 3. 本省所管の官有財産及物品に関する事項
- 土木廳に於ては次の事務を掌る。
1. 道路に関する事項
 2. 港灣に関する事項
 3. 都市計畫に関する事項
 4. 燈臺其の他の航路標識の工事及保守に関する事項
 5. 航空に伴ふ施設に関する事項
 6. 河川に関する事項
 7. 上下水道に関する事項
 8. 水力發電に関する事項
- 鐵道廳に於ては現在の鐵道省官制より監督局を除き其の他は其の儘とす。

- 大臣官房に於ては次の事務を掌る。
1. 機密に屬する事項
 2. 官吏の進退身分に関する事項
 3. 大臣の官印及省印の管守に関する事項
 4. 公文書類及成案文書の接受發送に関する事項
 5. 統計報告の調製に関する事項
 6. 公文書類の編纂保存に関する事項
- 管船局に於ては次の事務を掌る。
1. 航路標識に関する事項
 2. 航路、船舶、海員、水運及保護海事會社の監督に関する事項
- 航空局に於ては次の事務を掌る。
1. 航空取締に関する事項
 2. 航空に関する事業の保護奨励及監督に関する事項

入會及転格會員

會員 (入會)

赤木 進君 日立製作所龜戸工場

准 員 (入會)

飯山 外治君 京都市土木局
 河野 敏夫君 滿鉄々道總局建設局工事課
 姫野 正君 土木請負業野野組
 小野 久藏君 京都市水道局下水課

岩瀬 米藏君 日本拓業株式会社
 小林 武雄君 廣陽市役所
 細野 俊雄君 鐵道省信濃川電氣事務所

鹿山 行君 鐵道省大阪改良事務所
 菱田 耕造君
 山崎 長節君 東京電燈株式会社

学 生 員 (入 會)

有泉 文雄君 武藏高工
 佐藤 晋之助君 神戸高工
 竹内 一男君 神戸高工
 又木 憲一君 京都帝大

猪瀬 悦至君 武藏高工
 鹽田 忠男君 京都帝大
 日高 仁逸君 金澤高工
 松澤 大三郎君 名古屋高工

落合 徳次君 仙臺高工
 庄子 忠實君 仙臺高工
 廣井 邦雄君 武藏高工
 望月 榮三君 日大高工

會 員 (転 格)

巖 巖君 京都市役所

土木學會々員數

(昭和 11, 12, 14, 現在)

會 員	准 員	学 生 員	特 別 員	賛 助 員	合 計
2 816	2 714	561	3	20	6 114

會 員 齊 藤 鼎君 昭和 11 年 12 月 23 日逝去せられたり
本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり

會 員 山 本 信 要君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 内 村 秀君、田 所 要君の訃報に接す、本會は恭しく
哀悼の意を表す

学 生 員 戸塚敏雄君の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

會 告

通 常 總 會 開 催 通 知

下記の通り本會通常總會開催致候間御出席相成度此段御通知申上候

日 時： 昭和 12 年 2 月 15 日 (月曜日) 午後 5 時

會 場： 帝國鐵道協會 東京市麴町區丸ノ内 3 丁目 4 番地

- 總會順序： 1. 昭和 11 年度事業報告
2. 昭和 11 年度決算報告
3. 役員選舉の結果報告並に紹介
4. 土木賞牌贈呈
5. 會長講演

以 上

總會終了後晚餐會を催します、會費 2 円 (當日御持參のこと) 御出席の可否 2 月 10 日迄に御貴答を乞ふ。

土 木 学 會

會 告

第 2 回國際大堰堤會議提出並に國內研究論文集が發行されました，御希望の方は本會又は下記宛御申込み下さい，土木學會會員に限り 60 錢 (外に送料 4 錢) にて頒布致します。

發行所 東京市丸ノ内 3ノ4 有樂館日本動力協會内
世界動力會議大堰堤國際委員會
日本國內委員會

論 文 目 次

第 2 回國際大堰堤會議提出日本論文

重力堰堤内部温度のコンクリート強度に及ぼす影響……………	{ 日本電力株式會社 土木技師長	石 井 穎 一 郎
日本に於ける低熱ポルトランド・セメントの製造……………	{ 淺野セメント株式會社 技 術 部 長	藤 井 光 藏
基礎地盤の地質工学的的研究に資する堰堤工事實例……………	{ 富士電力株式會社 大間水力工事建設事務所長 北 海 道 技 師	諸 川 雄 二 岩 岡 武 博
土堰堤の耐震性……………	{ 工 学 博 士 内 務 技 師 内 務 技 師	物 部 長 徳 高 田 昭 治 松 村 孫 治
土堰堤体内滲潤水の流動状態並に其の作用に關し土堰堤の安定度算定に付きての二三の問題……………	{ 内 務 技 師 東京電燈株式會社 技術顧問 工學博士	高 田 昭 治 神 原 信 一 郎

大堰堤國際委員會日本國內委員會研究論文

大氣湿度の水和ポルトランド・セメント膨脹收縮に及ぼす影響……………	{ 東京工業大学 教授 工 学 博 士 東京工業大学 講師	近 藤 清 治 山 内 俊 吉
水和ポルトランド・セメント中の水分の形態と之がセメントの膨脹收縮に及ぼす影響……………	{ 東京工業大学 教授 工 学 博 士 東京工業大学 助 手	近 藤 清 治 鈴 木 信 一
日本産高珪酸質混合材を使用した混合セメントに關する研究……………	{ 東京工業大学 教授 工 学 博 士	永 井 彰 一 郎
堰堤伸縮接子と止水工法に關する調査報告……………	{ 大井川電力株式會社 取締役 工 学 博 士 顧問 技 師 新潟電力株式會社 技師 鐵 道 技 師	新 井 榮 吉 瀬 戸 角 馬 増 谷 悠 夫 阿 部 謙 夫
(附録) 堰堤伸縮接子設計に關する卑見……………	{ 北海道帝國大学 教授 工 学 博 士	倉 塚 良 夫

會 告

土木工学用語集配布に就て

土木工学用語集は 12 月 15 日より予約申込の方々へ配本を開始致しました。若し不着の場合は御照會を願ひます。尙本用語集は定價 2 円 50 錢ですが會員の方には 1 割引にて御頒ち致しますから未だ御求めなき方は本會宛御申込下さい。

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手数恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會 員		會 員	
荒川 參太郎君	稻 葉 彌吉君	木村 眞一郎君	小 林 源次君
轟 増 能君	山本 保之助君		
准 員		員	
和 泉 高 巖君	池田 乙次郎君	池田 角太郎君	緒 方 政 雄君
大 森 鶴 吉君	佐 藤 與 吉君	徐 三 善君	萩 原 官 六君
栗 田 忠 治君	小 林 義 雄君	野 口 金 太君	關 佳 夫君
曾 我 進君	福 島 保君	船 橋 貞 一君	高 橋 理三郎君
本 橋 二 郎君	吉 見 胤 隆君	中 野 順 太 郎君	難 波 壽 一君
吉 田 二 億君	劉 作 禮君	濱 崎 禎 四 郎君	平 本 源 太 郎君
水 原 豊 文君	宮 田 肇君	横 田 清 治君	石 原 三 郎君
齋 藤 賢 策君	多 田 安 三 郎君		

時報、會員の頁記事及工專寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工專の計畫，設計，施工の進捗，竣功の狀況，金額等のニュース
- 土木工学界の内外学協會，調査會，委員會等の設立，調査研究事項並に報告其他會議，催物の簡單なる紹介
- 官廳，會社，公共団体の組織，事業に関するニュース
- 法規，示方書，規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学，土木工事，土木學會，土木技術社會に對する批判，時評，感想，希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい



本會は常議員會の議決を経て鑛山内重要土木工作物の安全を期するため速に適當の方策を講ぜられむことを

商工大臣 小川郷太郎閣下

に下記の通り建議せり。

建 議

政府ハ尾去澤鑛山堰堤決潰ノ慘事ニ鑑ミ鑛山内土木工作物ノ安全ヲ期スルタメ速ニ適當ノ方策ヲ講ゼラレムコトヲ望ム。

理 由

近時我國鑛業ノ發達ニ伴ヒ鑛山ニ於ケル重要土木工作物ノ施設漸増シ是ガ建設及監督ニハ土木工学ノ専門的智識ヲ必要トスルハ勿論特ニ堰堤ノ築造ニ際シテハ起業者及監督官廳ノ双方ニ於テ土木工学及技術ニ通曉セル専門技術家ヲシテ其ノ設計施工並ニ是ガ審査監督ニ當ラシメ以テ災害防除ノ萬全ヲ期セザルベカラズ、然ルニ近時鑛山内各種土木施設ニ關スル計畫及施工ノ適正ヲ缺キ災害ヲ誘發シテ國土ノ保全人命財産ノ保安ヲ脅威スルコト極メテ多ク曩ニ吉野鑛山堰堤ノ崩壞アリ最近又尾去澤鑛山ニ於テ未曾有ノ大慘事ヲ惹起セルガ如キハ誠ニ遺憾トスル所ナリ。

本會ハ政府ガ此ノ現況ニ深ク鑑ミ速ニ鑛山局並ニ鑛山監督局ニ専門ノ土木技術者ヲ任用スルト同時ニ起業者ヲシテ優秀ナル土木技術者ヲ雇傭セシムル等其ノ他適當ノ方法ニヨリ是等工作物ノ安全ヲ確保スルニ努メラレムコトヲ切望シテ已マズ。

右本會常議員會ノ議決ヲ經テ及建議候

昭和 11 年 12 月 23 日

社 團 法 人 土 木 学 會

會 長 井 上 秀 二

商工大臣 小川郷太郎閣下

會 告

図書室及娛樂室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娛樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日 自1月4日至7月20日 至8月31日 及土曜日 自午前9時至午後4時、

但し 日曜日及祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す)



(印物大)

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會 費	會員種格	會費年額	第 1 期分 (1 月~6 月)	第 2 期分 (7 月~12 月)
	會 員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准 員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納 期 第 1 期分：3 月 第 2 期分：9 月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滯納者として遺憾ながら定款第 2 章第 14 條第 1 項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月 1 日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

會誌編輯委員

委員長	關 信 雄			
委 員	伊 藤 健 雄	板 倉 誠	稻 葉 通 彦	大 久 保 一 郎
	岡 崎 三 吉	加 藤 伴 平	樫 部 保	嶋 野 貞 三
	鈴 木 清 一	長 田 誠 三 郎	野 坂 孝 忠	廣 瀬 孝 六 郎

既刊會誌殘部内譯

(* は残部有るものを示す)

巻	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6		—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
18		—	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19		*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
20		*	*	*	*	—	—	*	*	*	*	*	*	1.00
21		—	—	—	*	*	—	—	*	*	*	*	*	1.00
22		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
第 20 巻第 12 號 (創立 20 周年記念號)														1.50
第 21 巻第 7 號 (會誌索引付)														1.30
震害調査報告書(1,2,3)														18.00
応用力学聯合大會講演集														1.00
鉄筋コンクリート標準示方書}														1.00
同上 解 説}														1.00
土木工学論文抄録														3.50
土木学会誌索引(第 1 巻第 1 號—第 20 巻第 13 號)														0.50
昭和 9 年關西地方風水害調査報告														1.80
土木工学用語集														2.50 (送料別)

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を換替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣 告 料

普通廣告	1 回 1 頁	35 円	1 回半頁	20 円
指定廣告	{ 裏表紙 3 面對 向及廣告初頁 }	1 回 1 頁	40 円	
		裏表紙 3 面	1 回 1 頁	70 円
		色アート	1 回 1 頁	60 円

- 指定廣告は凡て 1 箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす
- 廣告に寫真版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXIII, NO. 2, FEBRUARY 1937.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	11
Papers.	
Report on the Construction of Ohuna Bascule Bridge in Osaka. <i>By Sinnosuke Utiyama, C. E., Member.</i>	
<i>By Ituo Takahasi, C. E., Member.</i>	95
About the Modified Lohse Girder. <i>By Takesi Nakazima, C. E., Member.</i>	123
Discussions.	141
Note on Matters of Interest.	147
Our Members Say.	169
Current Notes.	171
Abstracts of Selected Articles.	179
Patent News.	205
New Publications.	207

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.